

学校で身に付けてほしいこと

校長 倉岡 ナオミ

富士山が頭に雪の帽子をかぶり、各地から紅葉の便りも届く頃となりました。秋の深まりを感じます。

今年度もあと5か月です。改めて、学校では子供たちにどんなことを学んでほしいかを後期の始業式で話しました。

1つ目は努力の大切さです。自分の目当てに向かってこつこつと小さな努力を積み重ねていくことで、達成は現実のものとなります。勉強でも運動でも習い事でも、努力なしに良い結果を得ることはできません。休み時間に子供たちと過ごしていると良い姿をたくさん見ることができます。鉄棒を一生懸命に練習して、技ができるようになった時の笑顔は格別です。この前まで、たしか逆上がりができなかった子が今は空中逆上がりも自分のものにしていました。単に一つの技を手に入れたというだけでなく、努力によって成し得る価値や自分の可能性など、きっと多くものを得たに違いありません。それは、これからにも必ず生きるはずです。

2つ目は善悪の判断をしっかり身に付けるということです。何が良くて何が正しくないのかを担当はじめ多くの職員の支援を得ながら、自分自身で判断できるようになってほしいです。自分が出そうとする言葉、しようとする行為・・・それが正しいか否かをよく考えてみることの大切さを話しました。先日、読んだ本の中に、言霊というものが出てきました。言葉には力が宿っているといいます。確かに私も思うところがあり、子供たちにも良い言葉を出し、悪い言葉は出さないこと。その言葉が自分の耳から入り、自分自身にも影響を与えることを、今までにも伝えてきました。さらに、その本では、言葉は生き物で、口から出た言葉は生き続けるので、心して使わなくてはいけないとありました。その意味をじっくり考えてみると、確かに奥の深いことがわかりました。何気ない一言が相手にとっては何日も、何年も心に残ることがあります。良い言葉の場合はいいいのですが、悪い言葉の場合は、その影響が残り、思わぬ副産物を生じさせることもあるわけです。自分では口から出した後、たいして意識を持っていないことであっても、一度口から出てしまった言葉は、勝手に生き続けてしまい、影響を与え続けてしまうということです。とても怖いことだと思いました。子供だけでなく大人も考えてみなくてはいけないことだと思いました。

3つ目は自分のためにはもちろん、人のためにも自分の力を使ってほしいということです。それが喜べるようになったら、本当に素晴らしいことだと思います。ペア学年の活動もそうした意識を育てる大切な場になっていますが、学校での集団生活がもつ意味もここにあるのかもしれません。

もちろん、ほかにも考えられることはたくさんありますが、あと5か月の中で意識して生活してほしいことを3つあげました。私たち大人も意識を高めつつ成長を見守りたいです。